

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201792		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花 東苗穂館		
所在地	札幌市東区東苗穂8条2丁目13番10号		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201792-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和1年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員で理念を唱和し、入居者様らしさを活かして笑顔になって過ごして頂ける様に取組んでいます。また、地域の発展に貢献できるよう活動を展開しています。入居者様と共に町内会等の行事に参加して、地域交流を図る様には、信頼関係の構築ができる様に努めています。町内会行事の花壇清掃や花寄せ植え講習会、盆踊り、茶話会、花火大会等は、入居者様も参加されるのを楽しみにされています。夏祭りをはじめ年間行事には沢山のご家族が参加されており、その都度話し合いを重ねて、ご家族との連携をとる様に心掛けています。ここでは、看取りを行っています。ご家族とは看取りの意向確認を定期的に行っており、その際は、医療関係とも連携して、安心して看取りや生活が送って頂ける様にしています。入居者様の重度化に於いても、職員研修を行い学んでおります。入居者様が最後まで終の棲家として、終末期を迎えて安心して生活をして過ごして頂ける様に参りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員で理念を唱和して、暮らしを支えるパートナーとして活動を通じ、地域福祉の発展に貢献する様に、職員間で話し合いながら、良質なサービスの実践に繋げている。又地域、町内会等交流をしながら、サービス提供に心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会や民生委員、地域包括等と繋がりを付けながら、町内会の花壇清掃や花の寄せ植え講習、茶話会、盆踊り、花火大会等へ利用者が参加したり、町内会他、地域の方が当館の夏祭りや敬老会、クリスマス会へ参加交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の内部研修・外部研修を含め、学習の場を設けて行い、また、地域に相談窓口を設けて取り組んでいる。運営推進会議でも、認知症サポーター講座を行ったり、認知症の方への講習案内や年2回菜の花通信を町内会等に発行し、地域に理解される様、努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、運営計画を伝え、活動状況をスライドで上映したり、ユニット別に利用状況を報告し、ご家族や地域の方々の意見を聞いて、活かしながら、サービス向上になる様に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や区単位での管理者連絡会に参加したり、社会福祉協議会担当者や生活保護担当者とも、施設訪問等で連携を取り、状況を伝えたり協力関係を構築出来る様に、取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内で身体拘束適正化委員会を設けて、検討や講習をしたり、内部・外部研修に参加して、身体拘束について学習の機会を持ち、職員が理解出来る様に取り組んで、身体拘束をしない様にケアサービスに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修のほか、ユニットでの内部研修を行ったり、外部研修に参加して、常に学習の場を設けて、日常に虐待が行われない様に、職員に自覚を促して注意し、虐待防止に心掛けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護等、社内や内部研修等で職員に学習機会を設けて、行っている。個々に必要なケースは、今の所ないが、必要であれば活用出来る様にはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居前に見学をされてから、契約をされる様にして、十分に説明をしている。また、解らない事があっても、都度話し合いをして理解される様にしている。解約される前にもご家族が理解される様に、十分に話し合い、納得された上で行う様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見要望されることは、ケアプランによってサービス支援するようにしているが、家族等に関しては、運営推進会議やアンケートを行ったり、意見要望箱の設置をして、意見・要望には運営に反映出来る様に取り組みをしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を年2回、定期的に行って、要望意見があれば伺っている。又都度、職員で何かあれば意見を聞く様に心掛けている。管理者は、上司や管理者会議の場で意見や提案案件を話し、反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や勤務状況は、管理者として本社に報告している。管理者会議にて、要望や意見収集をして、職場環境改善・整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が個々の職員の希望や力量をみながら、年間を通して、内部・外部研修に参加出来る様に枠組みを作り、法人としての環境整備がされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	社内グループに於いて、リーダー研修にて同施設での取り組みを訪問して、交流学习をしたり、市や区単位での管理者連絡会議にて、同施設の意見交流を行い、サービスの質の向上に心掛けて取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前より、見学して頂いたり、ご本人と事前に面談アセスメントしながら要望をお聞きして、安心して入居される様な関係作りを心掛けて、ケアプランに反映して、サービス提供出来る様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に納得して頂ける様に、見学を含め要望を聞き、出来ることを最大限生かせる様に取り組んでいる。また、疑問や、要望も入居後にも、連絡を取り合っており、状況報告をして都度話し合いをしながら、ご家族との信頼関係を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族とも相談しながら、ご本人にとって何が必要な支援サービスかをカンファレンス等を行い、十分に検討をしてより良いサービス利用が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護だけではなく、暮らしを支えるパートナーとして、ご本人が話している事や他者との会話で気づく様にしながら、安心して楽しく過ごしていける様な共生の関係を築く様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活・身体状況を、ご家族が訪問された際や電話で連絡をしたり、行事での家族会でも交流して、関係作りが出来る様に取り組んでいる。一部のご家族は、連絡して状況を伝えるが、訪問されないご家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が解らないので、あくまでキーパーソンの方に相手の方を確認をして承諾を得てから、友人が訪ねてきたり、電話連絡が来たら、ご本人と話して頂ける様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者とコミュニケーションがとれる方については、関わりが持てる様に、配席に心掛けて行っている。他者との関わりが苦手な方に関しては、完全孤立しない様に、職員が接して行く様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されたり、退去された方の御家族様には、その後も気軽によって頂ける様に声掛けはしている。経過・フォローは迷惑にならない様、敢えてしない様にしているが、関係性を築いて、ボランティアをしますと言ってくれる御家族もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が入居される前に面談にてアセスメントし、入居時も希望、要望を聞いたり、ご家族にも相談したり、出来るだけ望んでいる暮らしが出来る様に職員と話し合い、実現する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意向の把握同様、入居前の面談時や入居時に家族にも生活歴や暮らし方、生活環境もお聞きしている、また入居後もご本人やご家族に都度、話を伺いながら、アセスメント表に記入し、サービス提供出来る様に支援して行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後も日々見守りながら、状態の経過観察するとともに、気づきシートや介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら、個々の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理念にある、らしさを活かして笑顔で暮らせるように、毎日の生活を見守り、観察しながら、毎月モニタリングを行い、ご本人やご家族に意向や希望を伺いながら、カンファレンスでも話し合い、職員で情報共有してケアプランの作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録にケアの実践している事や気づきシートには、個々の気になる点や気づいたことを記入し、カンファレンス等で職員と情報共有しながら、ケアプラン作成やケアの取り組みを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞きながら、必要だと思われる事をモニタリングやカンファレンスで情報共有しながら、必要な時は医療連携機関とも相談し、訪問美容を利用されたり、様々に取り決めを行って、ご本人に合うサービス提供が出来る様、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が取り巻く環境を把握しながら、ご本人が楽しんで出来る事を、ご家族とも相談して行っている。また地域共生が出来る様に、町内会行事やボランティアの方に行事などは来て頂いて、楽しんで暮らして頂ける様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、掛かりつけの医療機関の受診希望は、受け入れている。また毎月、内科往診や歯科往診を行い、医療連携を行っている。個々の身体状況の変化があれば、必要な医療機関への受診対応や時には、ご家族にも支援して頂き、行う様にしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師に受診状況を知らせながら、毎日の身体状態の観察にて、身体状況の変化があった場合や、状態を報告しながら、必要な医療への受診が出来る様に連携を取りながら、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前、入院後も各医療関係者と相談し、連携を取りながら、本人に合った治療が出来、最善に尽くす様に取り組んでいる。また、退院に向けても病院へ訪問し、状態観察をしてご家族に相談し、入院先の医師や看護師に話を聞き、退院前にカンファレンスを行って、退院の受け入れが出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族には契約時に、重度化の説明をして、同意書を頂き、終末期における看取りの説明をして、同意書を頂いている。また身体状況にてご本人が不安定期になれば、都度ご家族と話し合いを医師や看護師とも相談、立会いの下で行い、職員ともカンファレンスしながら、看取り計画を進める様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修にて、緊急時における対応をフローチャートにて確認を職員で行い、学習しているし、実際に対応している。また職員全員、社内研修して救命講習を行い、AEDを含め、実践出来る様に訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、火災による避難訓練は年2回、水害・地震避難訓練は年1回行い、昼夜に分けた避難訓練を実施している。年1回は消防署立会いの下、火災避難訓練・消火訓練を行い、地域とも自動通報システムにより、町内会等の役員にも通報にてお知らせし、災害に備えている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居されている一人一人に対して、内部学習で人権擁護や接遇を学び、職員全員に自覚を促すと共に、日頃からプライバシーを尊重しながら、言葉づかいの仕方に注意して行う様に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日過ごされている生活の中で、入居されている方々に寄り添って、ご本人の希望を聞き入れながら、取り決める様に行う様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員が押しつけをするような事はせず、入居されている全員が過ごしたいスタイルで過ごして頂ける様、希望を聞いて個々への配慮に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞いて、個々の合わせたスタイルに出来る様、訪問美容でのパーマや毛染め、カットを行っている。また毎日の肌のお手入れされている方もいたり、毎日の髪の手入れを行い、服装も希望を聞いて行う様に支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、食事が楽しんで頂ける様に、嗜好を伺いながら、実施している。準備が出来る方も居て、一緒に行っていたが、今は衛生面を考慮して行っていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量を確認し、個々の身体状況に合った支援をしている。栄養スクリーニングも実施して、医療機関と連携を取りながら、経過観察を行っている。摂取量が少ない方には、嗜好も考えて、取りやすい工夫をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居されている全員の口腔ケアの状態を診ながら、声掛け・見守りをして行っている。必要に応じて、口腔ケアの介助を行っている。また、口腔ケアでの治療が必要な方は、訪問歯科に診てもらう体制にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、排泄表にてチェックしながら、入居者様全員の把握をする様に心掛けている。入居者様が重度化しているが、極力、自力で出来る様にトイレ誘導して支援している。尿意便意が無い方に関しては、排泄パターンの時間を看て、介助する様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居されている全員の排便状態を毎日把握して、必要に応じて飲食物の摂取工夫をしたり、運動をして便秘予防に取り組んでいる。また医療機関と相談しながら、身体の必要に応じて服薬内容も、十分に検討して行って支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居されている方の重度化に伴い、希望やタイミングに合わせては出来ない状況ではある。全介助の方も多く、曜日や時間帯を決めて、毎週行っている。また入浴剤の種類を置き、入浴される方の嗜好に合わせて、入浴を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様全員の生活習慣等は、ご本人、ご家族にお聞きしてアセスメントしながら、個々に合った生活を送れる様に支援し、お部屋で休まれる様にしている。また職員と情報共有し、カンファレンスをして身体状況に合わせて、休んで頂ける様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員も、薬に関して外部研修で学び、内部研修でも学習の機会を持って行っている。またその時の入居者様の身体状況を把握した上で、訪問看護師や医療機関と相談しながら、薬の処方をして健康管理をして行く様に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族にアセスメント、相談しながら生活歴や趣味嗜好を確認している。日々の生活の中でも、会話で伺った事で、ご本人がやってみたくいことが実現出来る事であれば、極力楽しんで出来る様に支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は、外気浴を感じて頂ける様に散歩の支援をしている。重度化に伴い、冬期間や体力的に長時間の外出は無理があるので、出来る範囲で外出レクを入居者様の要望も聞き入れながら、行う様に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は全て、キーパーソンの方がしており、ご本人は金銭管理を行うと、混乱が生じる事もあり、所持する事は原則行ってはいない。但し、ご本人が必要な日用品はお預かりしているお金で購入し、日用品以外は、ご家族に相談しながら購入して頂く様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より、要望希望があれば、電話を取り次いで行う様にしている。手紙を書かれる方は、現在いないが、希望があれば行える様に支援する。また、ご家族や確認された知人の方からの電話は、取り次いで本人とお話する様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の空間は、季節感を感じられる様に装飾ディスプレイしたり、視界が暗くならない様に照明の明るさも考えて行い、空調も快適な温度で過ごせる様にしている。また不快な臭いが感じない様に、消臭剤も考えて行い、気持ちよく過ごして頂ける様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、自由に過ごして頂ける様にしている。テレビの前にもソファを置いたり、入居されている方々で、仲良くお話出来る様に配席を考えて行っている。また一人になりたい時は、本人のお部屋で過ごして頂く様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室スペースに限度はあるが、ご本人やご家族には馴染みの物や写真を飾ったり、家具を置いて頂き、慣れ親しんだ空間にして頂く様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分はバリアフリーにし、お風呂やトイレ等、解りやすいように表示をしている。内部全体には手摺を設置し、自立歩行出来る様に配慮している。また、居室は個々の居室が解りやすい様に、名前や階写真をドアに貼り、解りやすい様に取り組んでいる。		